



4年制私大、定員割れ8.4ポイント改善

今年度に定員割れした4年制の私立大学は全体の38.1%で、昨年度から8.4ポイント改善したが、日本私立学校振興・共済事業団の集計で分かった。不況で学生の地元志向が高まり、定員割れに苦しんでいた地方の中小規模大学への志望が盛り返したことが要因とみられる。

調査は5月1日現在で581校ある4年制私大のうち、通信教育のみの大や募集停止の大学などを除く569校の今年度の入学状況を集計した。入学定員に入学者が達しなかった定員割れの大学は38.1%にあたる217校で、過去最多だった2008年度の47.1%（266校）から9ポイント

今年度は全体の38.1%

不況で高まる地元志向

校）減った。

今年度の入学定員の総計は約45万人で前年度から約1千人の増加にとどまった一方で、入学者は約49万人で約1万人も増えた。特に、定員100人未満の小規模な大学で定員割れが解消する割合が増えた。また、北陸や中国地方などでも回復傾向で、事業団は「長引く不況で、受験生が地元の大学を選ぶ傾向が出たのでは」と分析する。不況時のもう一つの特徴である「実学志向」の傾向も見られた。学部系統別の志願倍率は教育系が前年度より0.75ポイント上がって7.32倍に。家政系や保健系の倍率も伸び、資格が取れる学部の人気が高まった。（見市紀世子）

日本私立学校振興・共済事業団は「不況で地元志向が強まり、地方の中小規模の大学は入学者が増えました。しかし来年度は18歳人口が約2万人減り、厳しい状況に変わりはない」と分析しています。

ここ数年、受験生の動向として報じられていました「安」（私大よりも学費の安い国公立大学）・「近」（自宅から通学可能な大学）・「少」（受験校の絞込み）の流れが加速した結果であると考えられます。

USAGI通信はメールでの送信も可能です！！

弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。